

株主メモ

- 決算期 3月末日
- 基準日 3月末日
※その他必要がある時は、あらかじめ公告のうえ、基準日を設定いたします。
- 利益配当金受領株主確定日 3月末日
- 中間配当金受領株主確定日 9月末日
- 名義書換代理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502)
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
- 1単元の株式数 100株
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
- 貸借対照及び損益計算書掲載のホームページURL <http://www.asahipretec.com/ir/notification>

アサヒプリテック 株式会社

〒650-0001 神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
TEL. (078) 333-5600 (代) FAX. (078) 333-5681
<http://www.asahipretec.com/>

株主の皆様へ

第43期 中間事業報告書

平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日

ASAHI PRE TEC CORP.



アサヒプリテック 株式会社



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当上半期のわが国経済は、原油価格の高騰などから景気減速が懸念されましたが、個人消費や民間設備投資の回復を背景に、緩やかながら景気回復基調を持続しました。また、中国における素材原料の需要が増加し、貴金属・希少金属相場は概ね上昇しました。

このような状況の下、当社グループは、第3次中期経営計画最終年度に当たり、新規顧客開拓によるマーケットシェア拡大と個々の取引における採算性重視により、安定的な高収益体質を実現しました。

貴金属リサイクル事業では、電子材料、歯科材料、宝飾の各分野で貴金属・希少金属の回収量が堅調に推移し、同単価も概ね前年を上回ったことから、業績は大幅に伸長しました。

一方、環境保全事業分野でも廃試薬等の無害化処理事業や連結子会社の貢献により、業績は堅調に推移しました。

この結果、当社グループの中間連結経常利益は前期を上回り、中間連結当期純利益は13億円を確保することができました。

このような業績推移の中、株主の皆様に対して安定的な配当性向の維持を図るといふ基本方針に従い、また株主の

皆様の日頃のご支援にお応えするため、中間配当金を2円増配し、1株当たり16円とさせていただきました。

今期は3年間の第3次中期経営計画最終年度に当たり、10月31日に発表しました業績上方修正のとおり、連結売上高560億円、連結経常利益46億円、連結当期純利益29億円という過去最高利益を目指しております。

アサヒプリテックグループ一丸となって業績向上に邁進する所存でございますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

寺山 満春

(1) 経営の基本方針

当社グループは「社会的貢献」「企業の持続」「人間尊重」を経営理念として、安定と成長の両立により企業価値を継続的に高める経営を実践しております。昭和27年の創業以来、貴金属リサイクル及び環境保全の両事業において、事業環境が激しく変化する中、新たな分野での事業開拓等により、着実に成長を遂げてまいりました。今後とも、すべてのステークホルダーとの関係を大切にしつつ、循環型社会の形成に幅広く貢献することを通して事業の発展を続けていきたいと考えております。このため、中長期的視野に立った新規事業の開発、リスクマネジメント体制の強化及び経営の総合的な効率向上を重視します。

(2) 利益配分に関する基本方針

当社は株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識し、安定的な配当性向の維持を基本方針としております。一方、成長分野への新規事業開発に備えるため、内部留保の充実を図ることも重要であると考えております。

(3) 目標とする経営指標

当社グループは第3次中期経営計画（平成15年4月～平成18年3月）の中で、最終年度における連結ベースの指標としまして、売上高500億円、売上高営業利益率7.5%を目標として掲げております。今年度はその最終年度にあたりますが、売上高560億円、経常利益46億円、売上高経常利益率8.2%を業績予想として公表しております。

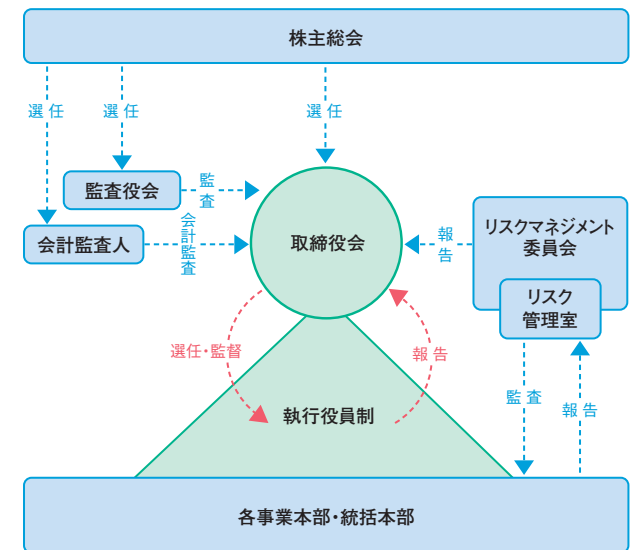
(4) 中長期的な会社の経営戦略

貴金属リサイクル事業におきましては、収益力の強化と並行して取引品目及びシェアの拡大に取り組みます。環境保全事業におきましては、新規成長分野への取り組みの強化を図ることにより、今後の持続的な成長の基盤を確立します。

(5) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

① コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

上場企業としての社会的使命と責任を果たし、持続的な成長と発展を実現するため、コンプライアンスを重視しつつ、経営環境の変化に迅速に対応できる取締役会及び事業執行体制の充実を推進しております。



② コーポレートガバナンスに関する施策の実施状況

(取締役会)
当社の取締役会は社内取締役で構成され、取締役会としての意思決定の迅速化を図るとともに、業務執行の監督を厳正に行っております。定期取締役会を原則年8回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

(経営会議)
経営会議は、社長・取締役及び執行役員等をもって構成され、取締役会への付議の可否を決定するとともに、取締役会で決定された基本方針・計画・戦略を遂行するための施策の審議を行っております。

経営と執行の機能分化によって効果的なコーポレートガバナンスを確立するため、当社グループの経営戦略上の意思決定と監督の機能を取締役に集中するとともに、業務執行機能を担う執行役員制を導入しております。

(監査役・監査役会)

当社は監査役制度を維持しております。監査役は現在4名で、内3名が社外監査役(弁護士2名、公認会計士1名)で構成され、取締役会への出席、営業所・工場等への往査、会計監査人からの会計監査結果報告会等を実施しております。なお、会社と社外監査役の間に特別の利害関係はありません。

(独立監査人)

当社は中央青山監査法人に会計監査を委嘱しております。

③内部統制システムの整備状況

取締役会は、経営の基本方針・計画・戦略、法令で定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、当社グループの事業執行状況をチェックする体制をとっております。

監査役は取締役会に出席し、コーポレートガバナンスの一翼を担う独立の機関であるとの認識の下、業務執行の全般に亘って監査を実施しております。

独立監査人である中央青山監査法人は、監査人として独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明しております。

また、当社では、当社全グループを対象として業務の適正な運営、改善、効率化を図るべく、リスク管理室による計画的で網羅的な内部監査を実施しております。

④リスク管理体制の整備状況

当社グループの事業遂行プロセス、業務構造等に潜在するリスクを適切にコントロールするため、全社横断的組織として、リスクマネジメント委員会を設置しております。リスクマネジメント委員会は、事業活動上のリスクの把握・評価及び対策を実施いたします。

リスクマネジメント委員会の下部組織として、各部門の業務に精通したメンバーで構成するリスク管理室を設置しております。

さらに経営企画部は、事業ポートフォリオレベルでの戦略リスク、成長リスクを政策的にコントロールする役割を担っております。これらの管理体制により、コンプライアンスを確立しつつ、リスクの顕在化を未然に防止します。

(6) 決算の概要

業績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、世界的なIT関連分野の調整がほぼ終了したことにより、米国、中国への輸出が持ち直し、設備投資は増勢基調を強めました。これら企業部門の改善が家計部門に波及し、個人消費は堅調に推移しました。また、米国の利上げに伴い円相場は円安傾向を示すとともに、貴金属・希少金属相場は堅調な需要により上昇傾向が継続しました。

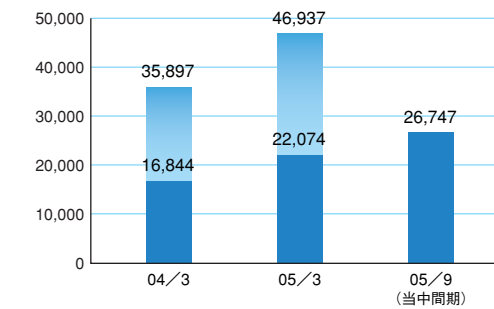
このような経済状況のもとで、当社グループは、新規顧客の開拓によってマーケットシェアをさらに拡大するとともに、個々の取引における採算性を重視し、安定的な高収益体質を実現しました。また当中間連結会計期間には、愛媛工場において貴金属回収を行う設備が稼動を開始するとともに、土木工事・解体事業に加えて、そこから発生する建設資材廃棄物の再資源化や建設発生土の再生を行っている株式会社塩入建材を完全子会社化しました。

当社グループの貴金属リサイクル事業領域に関して、電子材料分野では、IT業界の好況を反映して、貴金属原材料回収量は前年同期実績を上回りました。歯科材料分野では、リサイクル原材料の供給は安定した推移を示し、貴金属原材料回収量は前年同期実績を上回りました。宝飾加工・製造分野においても、宝飾業界は引き続き厳しい経営環境にありますが、貴金属原材料回収量は前年同期水準を確保しました。なお、貴金属平均販売単価に関しては、金、銀、プラチナ、インジウムが前年同期の水準を上回り、パラジウムは前年同期の水準を下回りました。

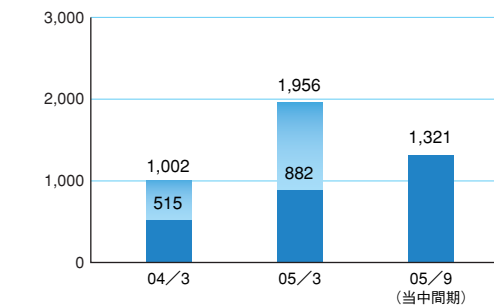
当社グループの環境保全事業領域に関して、写真感光材料分野では、デジタルカメラの普及の影響を受け、写真感材廃液の処理量及びそこに含まれる銀の回収量は前年同期実績を下回りましたが、工場や試験研究機関等から排出される廃油や廃液の取扱量は前年同期実績を上回りました。また、連結子会社である日本ケミテック株式会社、株式会社大門、株式会社エコマテリアル、株式会社三商の業績は堅調に推移し、平成17年4月に連結子会社となった株式会社塩入建材も連結業績に貢献しました。

この結果、当中間連結会計期間の連結売上高は26,747百万円、セグメント別では、貴金属リサイクル事業が21,666百万円、環境保全事業が5,080百万円となりました。利益面では、連結営業利益は2,190百万円、連結経常利益は2,165百万円、連結中間純利益は1,321百万円となりました。

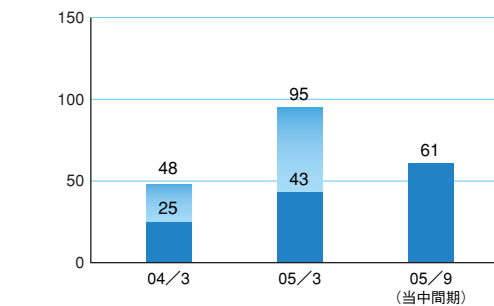
■ 売上高 (単位: 百万円)



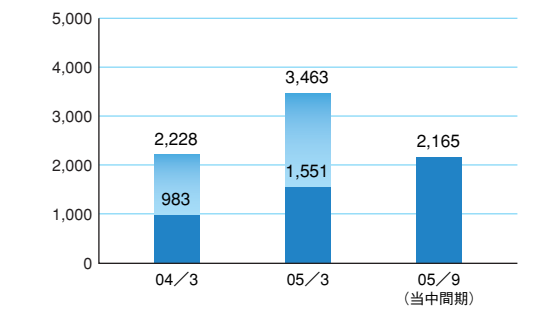
■ 中間(当期)純利益 (単位: 百万円)



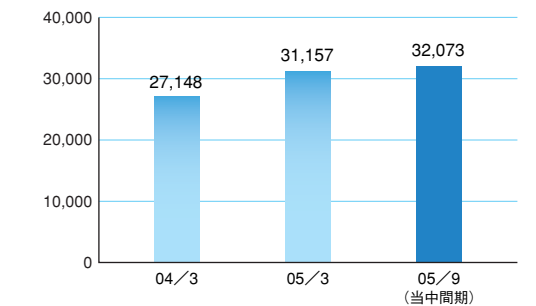
■ 1株当たり中間(当期)純利益 (単位: 円)



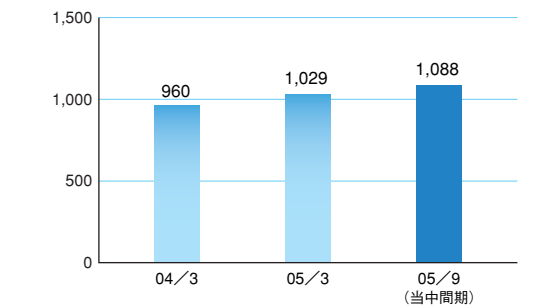
■ 経常利益 (単位: 百万円)



■ 総資産 (単位: 百万円)



■ 1株当たり株主資本 (単位: 円)



連結財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

科目	期別	資産の部		
		当中間期末 (平成17年9月30日)	前中間期末 (平成16年9月30日)	前期末 (平成17年3月31日)
流動資産		11,874,579	13,371,382	12,375,354
① 現金及び預金		2,197,263	4,503,507	4,435,523
受取手形及び売掛金		2,521,713	3,111,140	2,464,655
たな卸資産		6,634,688	5,278,499	5,094,446
繰延税金資産		303,670	302,223	318,864
その他		221,085	180,872	65,417
貸倒引当金		△ 3,842	△ 4,861	△ 3,552
固定資産		20,198,897	18,578,458	18,781,840
有形固定資産		19,385,561	17,699,764	17,995,694
建物及び構築物		6,201,277	5,980,329	5,946,929
機械装置及び運搬具		3,540,769	3,717,991	3,391,664
土地		8,763,133	7,474,562	7,600,511
建設仮勘定		443,008	188,413	563,136
その他		437,373	338,466	493,453
無形固定資産		372,116	399,308	360,873
投資その他の資産		441,219	479,386	425,271
投資有価証券		21,714	24,725	19,240
繰延税金資産		97,655	94,337	72,956
その他		328,822	378,451	333,717
貸倒引当金		△ 6,972	△ 18,127	△ 643
資産合計		32,073,477	31,949,841	31,157,194

POINT ①

現金及び預金の減少

2005年4月からキャッシュ・マネジメント・システム（CMS）を導入したことにより、当社及びグループ会社の預金口座を結合し、グループ資金の圧縮を実現しました。

(単位:千円)

科目	期別	負債の部		
		当中間期末 (平成17年9月30日)	前中間期末 (平成16年9月30日)	前期末 (平成17年3月31日)
流動負債		5,724,318	7,053,361	5,751,446
支払手形及び買掛金		2,145,076	1,701,303	1,769,410
短期借入金		850,000	2,545,000	875,000
一年内返済予定長期借入金		533,614	876,952	699,152
未払金		544,963	539,923	729,356
未払法人税等		842,618	667,036	903,856
賞与引当金		501,024	467,465	451,515
その他		307,020	255,680	323,155
固定負債		721,912	4,868,111	4,567,686
新株予約権付社債		—	3,492,000	3,492,000
長期借入金		250,250	938,704	656,698
退職給付引当金		82,092	89,689	58,321
役員退職慰労引当金		161,125	161,125	161,125
繰延税金負債		111,202	110,025	111,016
連結調整勘定		117,242	76,566	88,525
負債合計		6,446,230	11,921,472	10,319,132
少数株主持分				
少数株主持分		23,278	11,390	21,740
資本の部				
資本金		4,480,817	2,737,000	2,737,000
資本剰余金		6,054,118	4,310,301	4,310,301
利益剰余金		15,852,735	14,209,079	15,019,916
その他有価証券評価差額金		6,195	3,794	3,952
為替換算調整勘定		△ 33,324	△ 37,713	△ 49,298
自己株式		△ 756,575	△ 1,205,484	△ 1,205,551
② 資本合計		25,603,968	20,016,977	20,816,321
負債、少数株主持分及び資本合計		32,073,477	31,949,841	31,157,194

POINT ②

資本の増加

新株予約権付社債の株式転換等により、資本合計が4,787百万円増加しました。

損益計算書

(単位:千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
売上高		26,747,004	22,074,444	46,937,277
売上原価		23,155,519	19,431,085	41,290,479
売上総利益		3,591,485	2,643,359	5,646,797
販売費及び一般管理費		1,400,659	1,040,885	2,133,335
③ 営業利益		2,190,825	1,602,473	3,513,462
営業外収益		26,036	16,114	38,869
営業外費用		51,559	66,634	89,309
経常利益		2,165,303	1,551,953	3,463,022
特別利益		5,220	—	543
特別損失		42,041	96,183	312,351
税金等調整前中間（当期）純利益		2,128,482	1,455,769	3,151,213
法人税、住民税及び事業税		796,785	641,694	1,259,103
法人税等調整額		8,441	△ 70,716	△ 67,414
少数株主利益		1,524	2,147	3,497
中間（当期）純利益		1,321,730	882,643	1,956,027

POINT ③

営業利益の増加

貴金属リサイクル事業において、貴金属原材料の回収量及び平均販売単価が前期の水準を上回り、環境保全事業の業績が堅調に推移し、売上高及び営業利益が増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		893,558	218,100	3,561,230
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,968,710	△ 1,581,567	△ 2,599,181
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,168,431	2,721,051	337,682
現金及び現金同等物に係る換算差額		5,423	4,107	△ 6,024
現金及び現金同等物の増減額（減少：△）		△ 2,238,159	1,361,691	1,293,707
現金及び現金同等物期首残高		4,435,523	3,141,815	3,141,815
現金及び現金同等物中間期末（期末）残高		2,197,363	4,503,507	4,435,523

POINT ④

投資活動によるキャッシュ・フロー

名古屋営業所・広島営業所の移設、愛媛工場設備投資、子会社日本ケミテック株式会社によるグループ生産・輸送設備増強等により、1,968百万円の減少となりました。

POINT ⑤

財務活動によるキャッシュ・フロー

長短借入金の減少額869百万円、利益配当金282百万円等により、1,168百万円の減少となりました。

単体財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

科目	資産の部		
	期中	前期中	前期末
流動資産	11,930,247	12,156,791	11,194,875
現金及び預金	1,852,352	3,968,480	3,960,932
受取手形	35,122	46,041	34,765
売掛金	1,659,966	2,410,562	1,765,182
たな卸資産	6,588,705	5,259,869	5,073,565
関係会社短期貸付金	1,314,471	—	—
繰延税金資産	288,341	294,628	310,156
その他	193,788	179,709	51,773
貸倒引当金	△ 2,500	△ 2,500	△ 1,500
固定資産	18,632,313	17,854,941	17,991,925
有形固定資産	15,260,481	15,201,213	15,406,618
無形固定資産	334,260	368,967	327,496
投資その他の資産	3,037,571	2,284,759	2,257,810
資産合計	30,562,561	30,011,733	29,186,801
負債の部			
流動負債	5,134,886	5,787,570	4,607,232
買掛金	1,959,958	1,548,313	1,617,988
短期借入金	800,000	1,800,000	200,000
一年内返済予定長期借入金	502,800	749,000	589,800
未払金	450,851	449,769	662,679
未払法人税等	784,933	631,586	855,338
賞与引当金	461,164	444,949	425,753
その他	175,178	163,951	255,672
固定負債	434,920	4,420,915	4,154,677
新株予約権付社債	—	3,492,000	3,492,000
長期借入金	203,800	690,000	455,200
退職給付引当金	69,995	77,790	46,352
役員退職慰労引当金	161,125	161,125	161,125
負債合計	5,569,807	10,208,486	8,761,910
資本の部			
資本金	4,480,817	2,737,000	2,737,000
資本剰余金	6,054,118	4,310,301	4,310,301
利益剰余金	15,210,096	13,958,045	14,579,726
その他有価証券評価差額金	4,296	3,384	3,413
自己株式	△ 756,575	△ 1,205,484	△ 1,205,551
資本合計	24,992,753	19,803,246	20,424,890
負債・資本合計	30,562,561	30,011,733	29,186,801

損益計算書

(単位:千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
売上高		24,397,382	20,308,742	43,292,736
売上原価		21,370,214	18,098,345	38,549,259
売上総利益		3,027,168	2,210,397	4,743,477
販売費及び一般管理費		1,094,170	806,522	1,695,994
営業利益		1,932,998	1,403,875	3,047,482
営業外収益		17,438	16,903	30,083
営業外費用		48,041	45,219	63,267
経常利益		1,902,394	1,375,559	3,014,299
特別利益		5,076	—	—
特別損失		41,761	95,052	281,736
税引前中間(当期)純利益		1,865,709	1,280,507	2,732,562
法人税、住民税及び事業税		744,425	609,544	1,171,689
法人税等調整額		2,003	△ 74,491	△ 68,807
中間(当期)純利益		1,119,281	745,454	1,629,681
前期繰越利益		1,099,217	1,046,354	1,046,354
中間配当額		—	—	262,546
自己株式処分差損		176,170	—	—
中間(当期)未処分利益		2,042,328	1,791,809	2,413,490

株式の状況

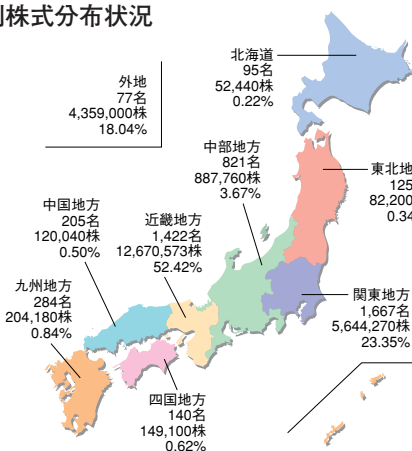
(平成17年9月30日現在)

- 発行する株式の総数 86,000,000株
- 発行済株式総数 24,169,563株
- 1単元の株式数 100株
- 株主数 4,836名
- 大株主

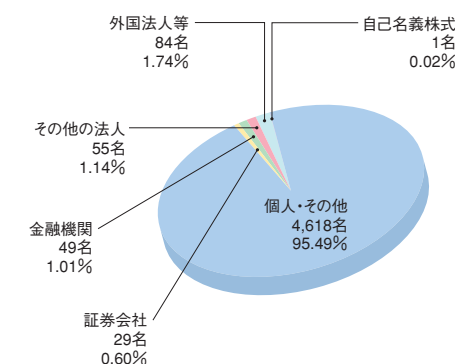
株主名	持株数	議決権比率
寺山満春	2,468千株	10.49%
寺山正道	2,168	9.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	970	4.12
バンクオブニューヨーク・シー・エム・クラリアント・アカウンティング・アイズ	816	3.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	601	2.55
花井幸子	597	2.53
満園順一	518	2.20

(注) 当社は、自己株式652千株を保有しております。なお、当該株式は商法第241条第2項の規定により議決権を有していません。

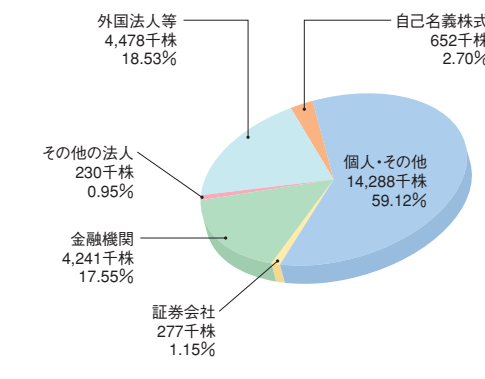
地域別株式分布状況



所有者別株主分布状況



所有株式数別分布状況



会社の概要

(平成17年9月30日現在)

■ 商号	アサヒプリテック株式会社
■ 創業	1952(昭和27)年7月
■ 資本金	44億8千万円
■ 本社所在地	神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
■ 従業員数	702名(平成17年9月30日現在)
■ 事業内容	貴金属・希少金属資源のリサイクル 環境保全(産業廃棄物の無害化処理)
■ 子会社	日本ケミテック株式会社-日本ケミテックロジテム株式会社 株式会社三商 株式会社エコマテリアル 株式会社塩入建材 ASAHI G&S SDN. BHD. (マレーシア) 上海朝日浦力環境科技有限公司(中国)

取締役・執行役員及び監査役

代表取締役社長	寺山満春
取締役執行役員	武内義勝
取締役執行役員	嶋崎勝乗
取締役執行役員	赤羽喜代人
執行役員	馬郡義彦
執行役員	亀倉義哉
執行役員	東浦知哉
執行役員	平野眞誠
執行役員	山口正明
常勤監査役	井上正己
※監査役	小林貞五
※監査役	徳嶺和彦
※監査役	有海澈明

※「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役

事業所

支社	東京支社
研究所	テクノセンター
工場	埼玉、静岡、神戸、愛媛、北九州、 福岡、パソコンリサイクルセンター (以上7ヶ所)
営業所	札幌、青森、仙台、新潟、北関東、 関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、 北陸、大阪、神戸、岡山、広島、 四国、福岡、鹿児島、沖縄 (以上19ヶ所)

ISO 14001 取得拠点

本社、仙台、北関東、静岡、神戸、四国、福岡、
テクノセンター

ISO 9001 取得拠点

テクノセンター

収集運搬業許可

47都道府県・57政令都市

処分業許可

12都道府県・8政令都市

TOPICS

広東省 国際環境ビジネス展示会に出展しました。

本年8月31日から9月3日にかけて、中国広東省・広州市において、国際環境保全ビジネス展示会が開催されました。

当社は、広東省と姉妹都市提携関係にある兵庫県や県下の環境関連企業とともに「日中環境ビジネス交流団」(団長 盛岡通 大阪大学大学院教授)の構成メンバーとして出展いたしました。

展示会場における出展ブースでは、映像機器等を用いて、当社のパソコンリサイクル事業、貴金属リサイクル事業ならびに当社の中国現地法人である上海朝日浦力環境科技有限公司の事業を紹介しました。当社出展ブースを訪れた多くの来場者から、当社の技術と実績に対する高い関心が示され、発展する中国の環境保全ビジネス分野の将来に向けたアサヒプリテックグループの活動に大きな手ごたえが得られました。



チーム・マイナス6%に参加しました。

閣議決定された京都議定書目標達成計画では、地球温暖化対策の基本的考え方として、国、地方公共団体、事業者、そして国民一人ひとりが、協力して地球温暖化対策に取り組まなければならないとされています。

「この手で守る自然と資源」をスローガンとして環境保全を業とする当社においても、「チーム・マイナス6%」のアクションプランを受け、当社では以下の7項目に取組んでおります。

- ① クールビズ・室内温度28℃の推進 (6月~9月)
ウォームビズ・室内温度20℃の推進 (11月~3月)
- ② 節水活動の推進
- ③ アイドリングストップの推進、急発進・急停車の禁止
- ④ 事務用品等購入時には、エコ商品を優先的に選択する。
- ⑤ 資材等の購入先へ適正な包装を依頼する。
- ⑥ 電気器具を適切にON、OFFする。
- ⑦ 省エネ・省資源に関する「一市民としての環境保全活動アンケート」を定期的実施する。

